



欄に数値またはコメントを記入

| 1. 建物概要 | | | | | |
|---------|-------------------|-----|-----|--------|----|
| 建物名称 | キョウデンプレジジョン三福工場B棟 | BEE | 0.8 | BEEランク | B- |
| | | | | ★★ | |

| 2. 重点項目への取組み度 | | | | | |
|--|---------------------|-------|----------------|--|-------------------|
| 重点項目 | 得点 [※] /満点 | 取組み度 | 評価 | | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | 3.3 /5 | | ふつう | | |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | 2.9 /5 | | がんばろう | | |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 2.9 /5 | | がんばろう | | |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | 2.8 /5 | | がんばろう | | |
| ※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点) | | 評価 凡例 | よい 4 点以上 | | ふつう 3 点以上 |
| | | | | | がんばろう 3 点未満 |

| 3. 重点項目についての環境配慮概要 | | 内訳対応項目 | | | |
|--|--|--|------------------------------|-----------------------------------|-----|
| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 | | | | | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming) | | 得点 | | 3.3 | |
| <p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①熱損失の大きい開口部のガラスにLow-Eの複層ガラスを採用した。 ③ブラインドを設置。 ④給水管、排水管、消火管は耐用年数の長い材料を採用する。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地外周には、高木を含む緑地を設けている。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦複層ガラスを採用するなど、外皮性の向上を図った(BPIm=0.93) ⑨LED照明の採用。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪手洗いの自動水栓、節水型の衛生器具等を採用。 ⑫解体時に分別し易い仕上げ材の構成とした。 ⑬断熱材: 有害物質の少ないポリスチレンフォームを採用。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭CO2排出率 92%</p> | Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ | ① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 | Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ | ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 | |
| | LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ | ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 | | | |
| | LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ | ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 | | | |
| | LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮ | ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善 | | | |
| "災害に強いしずおか"の形成(Disaster) | | 得点 | | 2.9 | |
| <p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯静岡県構造指針に準拠した構造計画とした。</p> | Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰ | ⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備 | | | |
| | "しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design) | | 得点 | | 2.9 |
| <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳将来の機器レイアウト変更に対応できるように余裕のある階高とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑防犯カメラを設置する。</p> | Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑ | ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上 | | | |
| | "緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature) | | 得点 | | 2.8 |
| <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ㉓敷地外周に高木を含む植栽を設け、外構緑地指数33%を確保した。 ㉓周辺の景観に合った色彩計画とする。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善) ㉕隣棟間隔指数Rw=0.4、地表面対策面積率=17%</p> | Q-3 1 ⑳ 2 ㉑ 3 3.2 ㉒ | ⑳ 生物環境の保全と創出 ㉑ まちなみ景観への配慮 ㉒ 敷地内温熱環境の向上 | LR-2 2 2.5 ㉔ LR-3 2 2.2 ㉕ | ㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 温熱環境悪化の改善 | |

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | キョウデンプレジジョン三福工場B棟 | 階数 | 地上4F |
| 建設地 | 静岡県伊豆の国市三福80-2 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 工業地域 | 平均居住人員 | 440 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 2,000 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 工場 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2024年5月 予定 | 評価の実施日 | 2023年7月3日 |
| 敷地面積 | 12,861 m ² | 作成者 | 八木 正憲 |
| 建築面積 | 1,349 m ² | 確認日 | |
| 延床面積 | 4,120 m ² | 確認者 | |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 92%

③上記+②以外の 92%

④上記+ 92%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---|--|---|
| 総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。既存工場の建て替えに伴い、生産工程の効率化を図る事をメインに計画を行っている。生産エリアについては、将来の機器配置換えにも対応できるように荷重に余裕を持った構造としている。照明器具、衛生器具については、省エネタイプの機器を積極的に採用し、環境に配慮している。屋外については、既存の状態が緑地が多く確保されていたことから、そのまま継承する事としている。 | | その他 建設中の発生材については、分別集積を行い、リサイクル可能なものとする。 |
| Q1 室内環境 建物外周部には、自然光が取り入れられるように窓を極力設置している。 熱損失の大きい外壁の窓には、Low-E複層ガラスを採用した。窓部分には、ブラインドを設け、進入光の調整ができるよう | Q2 サービス性能 建物外周部には、屋外の様子が分かるように窓を設置している。また、3階に休憩室を設け、十分な休憩が取れるよう配慮している。 衛生設備の配管には、耐久性の高い配管を極力使用する。 | Q3 室外環境(敷地内) 敷地外週には、高木を含む緑地を設置(約33%)。建物が中層となるため、周辺環境に馴染むような色彩を採用する。 |
| LR1 エネルギー 外皮性能BPI _m =0.93を確保した。 自然エネルギー等の採用は見送っている。 | LR2 資源・マテリアル 雨水の利用はしていないが、節水型の器具を採用している。 解体時には、部材の再利用がしやすいように、躯体と仕上げ材が容易に分別できるようにしている。 使用する断熱材は、有害物質の少ないものを採用する。 | LR3 敷地外環境 CO ₂ 排出率が92%となっている。 交通負荷が掛からないように、駐輪場、宅配用・来客用駐車場、荷捌きスペースを確保している。 生産機械からの騒音、振動は法基準値を順守している。屋外広告物の照明は無く、周囲への光害も気にならないように抑え |

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される